

オゾン層・紫外線の年のまとめ（2012年）

2012年の特徴

2012年のオゾン層・紫外線の状況の主な特徴は以下のとおりです。

オゾン層の状況

○世界のオゾン層

- ・南極大陸のほとんどの領域で、年平均オゾン全量は参照値（1997～2006年の累年平均値）より10%以上多く、一部は15%以上だった。→本文3ページ参照
- ・南緯60度～北緯60度で平均した月平均オゾン量は、全般的に参照値（1997～2006年の累年平均値）より少ない状態が続いた。→本文3、6ページ参照
- ・世界全体のオゾン全量は、1990年代後半以降はほとんど変化がないかわずかな増加がみられるが、1979年以前より少ない状態が続いている。→本文7ページ参照

○日本上空のオゾン層

- ・日本上空の月平均オゾン全量は、国内4地点（札幌、つくば、那覇、南鳥島）とも参照値（1994～2008年の累年平均値）と同程度の月が多かった。→本文10ページ参照
- ・日本上空のオゾン全量は、1990年代半ば以降、国内4地点（札幌、つくば、那覇、南鳥島）で緩やかな増加傾向がみられる。→本文12ページ参照

○南極オゾンホール

- ・南極オゾンホールの年最大値は1990年代以降で最も小さかった。→本文17、22ページ参照

紫外線の状況

○国内の紫外線

- ・国内の紅斑紫外線量日積算値の月平均値は、国内3地点（札幌、つくば、那覇）で、参照値（1994～2008年の累年平均値）より多いか同程度となる月が多かった。→本文31ページ参照
- ・紅斑紫外線量の年積算値の経年変化では、札幌とつくばで増加傾向がみられる。→本文32ページ参照

○南極域における紫外線

- ・南極昭和基地の紅斑紫外線量日積算値の月平均値は、9～11月に参照値（1994～2008年の累年平均値）より少なかった。→本文34ページ参照